

「令和元年度 気仙沼市・災害対策本部図上訓練」に参加しました(2019/6/4)

テーマ：災害対応，防災訓練，気仙沼分室
場所：気仙沼市役所（宮城県気仙沼市）

6月4日（火）に気仙沼市役所 ワン・テン庁舎2階 大ホールにおいて，令和元年度「みやぎ県民防災の日」気仙沼市総合防災訓練として「災害対策本部図上訓練」が開催されました（主催：気仙沼市）。気仙沼市では，「東日本大震災」等の災害経験をもとに，「みやぎ県民防災の日（6月12日）」に先立ち，災害対策本部対応職員による災害対応図上訓練及び防災関係機関との情報収集・伝達訓練を毎年実施しています。

訓練では，令和元年6月4日（火）午前9時，三陸沖を震源とするマグニチュード9.0と推定される地震が発生し（宮城県内で最大震度7，気仙沼市で震度6弱），沿岸部に大津波警報（特別警報）が発表され，家屋等の倒壊や大津波，火災，ライフライン途絶等の甚大な被害が発生し，その後，台風の接近による大雨警報及び土砂災害警戒情報が発表される複合災害が想定されました。当日は，気仙沼市長をはじめ同市の多くの幹部が参加し，コントローラーとプレーヤーに分かれ，実際の災害において予想される被害状況を具体的に想定し，コントローラーからの状況付与に対して，プレーヤーが情報収集，情報優先度の選別・分類，意思決定，指示を行う状況付与型訓練として実施されました。

当研究所からは，同市の新庁舎建設基本構想有識者会議で委員長をつとめる丸谷浩明教授（人間・社会対応研究部門），災害科学国際研究所の気仙沼分室を担当する佐藤翔輔准教授（情報管理・社会連携部門）が訓練を観察し，講評する評価者として参加しました。

訓練は2時間（実時間想定，前半1時間は発災，後半1時間は翌日中）行われ，その後，参加職員や応援機関による相互のふりかえりの時間が設けられました。丸谷浩明教授からは，発災直後における津波避難へ対応姿勢や庁舎浸水時の代替拠点の移転検討について，佐藤翔輔准教授からは，情報処理の方式と訓練方法について指摘を行いました。

当研究所は平成25年7月に「気仙沼市と国立大学法人東北大学災害科学国際研究所との連携と協力に関する協定」を締結するとともに，気仙沼分室を気仙沼市内に設置して，防災・減災や復興の推進に連携して取り組んでいます。



訓練の様子（その1）



訓練の様子（その2，中央：丸谷浩明教授）

文責：丸谷浩明（人間・社会対応研究部門），
佐藤翔輔（情報管理・社会連携部門，気仙沼WG）